



米大統領選挙報道…政治家の品格とは

■米国大統領選挙ニュースを「聞いて」

英語漬けの数日間だった。但し、CNNj の場合は、かなりの部分で日本語通訳が付くので、聞いている限り自分自身は日本語世界のど真ん中の気持ちだ。ところが、それだからこそ通訳が繰り返す日本語が気になった。下に3事例示す。

1. 11月2日 0754の事例
CNN 通訳④ 「ピッツバーグ、ピッツバーグ…」
(カタカナの読み間違いか、原稿描き間違い)
2. 11月3日 午後事例
「きょうわみんしゅのけっせんひ」(抑揚違い)
○共和民主決戦の日 ×今日は民主決戦の日
3. 11月6日 午後事例
午前×ヨンジよんじゅつぶん ○ヨジよんじゅつぶん
(午前4時40分米国東海岸時間)

通訳の質について

CNN は朝7時～深夜は英語～日本語の通訳がつく。中に、暗い声、単語を途中で区切って言う、話す速度が不安定でわかりにくい、しかも高飛車な物言いする人が複数いる。この手の人は、英語はさておき、日本語の知識と感性が乏しい印象。似たような通訳はNHKでも遭遇するから、CNN限定ではない。不思議なことに、このようなわかりにくい通訳は英語→日本語以外には見られない。フランス語、ドイツ語、スペイン語→日本語の通訳は、心落ち着く日本語を話す。
11月6日午後

■アンカー、ドン・レモンとクリス・クオモの談話

11月8日午前0時過ぎ、バイデンの勝利が確定したのち、クリス・クオモとドン・レモンの2人のアンカーがこの数日と、トランプの数年を振り返って語り合う場面があった。ともにバイデン勝利に感極まり、それぞれに涙ぐむシーンが映し出された。トランプ時代の終焉に立ち会い、来し方を振り返る二人の様子は、心を打つものだった。この数日間の不眠不休の選挙戦報道の緊迫を乗り越え、11月12日、梅田(バイデン)次期大統領!!が決定的のなり、民主党政権への移行が現実のものになった。どんなにか心を動かされたのだろう。CNN 鼻負の筆者の感想。

次期大統領・次期副大統領の演説は「癒し」

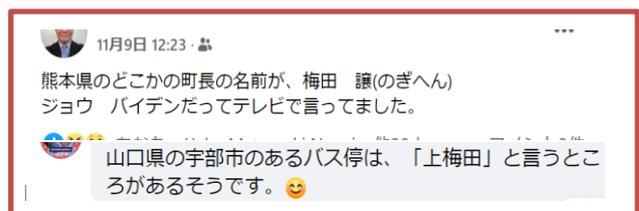
バイデン次期大統領の勝利演説、カマラ・ハリス次期副大統領の演説もまた、心に響くものだった。良識と教養と柔和がバイデン演説の基調であり、論理と正義と平等志向がハリス演説からは溢れ出た。聞く人の心に平和と安定を感じさせる両者の演説は、ここ数年、滅多に聞くことがなかった穏やかで温かい言葉に満ちていた。敗北受入れを拒否し、11月10日になっても悪あがきを続け、耳障りな罵りを辞めないトランプ大統領の様子がわずかでも報じられると、何のかかわりもない自分の心に殺伐とした感情が染み出てくる。それが、バイデン勝利の結果としてとてもよく分かった。この数年間の米国民の国内的分断が結構日本の私にも影響していたのだ。バイデン次期大統領は、早くもコロナ対策の具体的な行動を始めている。その効果が出るまでに時間がどれだけかかるにせよ、早速コロナ対策に向けて動きだした次期大統領の想いには、コロナにおびえる米国民は大いに癒されるだろう。欧州主要各国からは次々に次期大統領あての祝意が伝えられた。次期大統領を世界の首脳陣の一員として歓迎するというメッセージである。世界が新たな正常化に向けて動きだしたとを感じる。

名誉あるトランプ大統領であってほしい→取消!

他方、米国内では、大統領の暴走が目立つ。選挙に不正があったと声高に主張し、それまで支えてきた側近を解雇し、自らの敗北宣言を拒否し続ける敗軍の将の言動は、哀れの一言に尽きる。

本稿脱稿後の1月6日、米国会議事堂襲撃扇動事件で私の考えは変わった。消えよ、トランプ!

(ち)



ばいでん

↑11月12日 FBより。日本で愛される梅田大統領!!

おもな内容

米国大統領選挙報道byCNN……………1
視点・21世紀デジタルアーカイブ年表解説付……………2
散歩道・大山捨松の手紙……………3

DJIレポート No.123 20210131

消息/やぶにらみ文献紹介/あしあと/活動……………4
巻末随想 鳥取県公文書館/JICA 緒方平和研究所他……………5

【チヨコの視点】21世紀デジタルアーカイブ年表解説付

20210126 国際資料研究所作成

年	月	事項
2001	1	IT基本法施行
2002	2	知的財産戦略会議開催
2003	3	知的財産基本法 知的財産戦略推進事務局、内閣官房に設置
2005	3	知的財産戦略本部、内閣に設置、本部長は内閣総理大臣
2009	4	図書館法・博物館法改正、司書、学芸員の資格科目にデジタル科目を追加 省令21、22
2010	5	知的財産推進計画2010
2011	7	復興構想7原則
2016	4	知的財産戦略推進事務局 内閣府に移る
2017	4	デジタルアーカイブ推進の方向性 デジタルアーカイブ構築・共有・活用ガイドライン 知的財産推進計画2017
		Society 5.0社会の提唱 デジタルアーカイブ学会発足
2018	6	知的財産推進計画2018
	11	デジタルアーカイブ諸外国政策調査
2019	2	ジャパンサーチ試験公開
	6	知的財産推進計画2019
2020	5	知的財産推進計画2020
	8	ジャパンサーチ正式版公開 3か年総括報告書「我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現にむけて」

【解説】

拙著『電子記録のアーカイビング』を上梓してからすでに18年が過ぎた。この間、電子記録という言葉はほぼ死語となり、デジタルアーカイブがその座を奪った。2011年の東日本大震災では、復興構想7原則の1として記録の保存が謳い上げられ、これを手掛かりとして、画像情報、音声情報と組み合わせたデジタルアーカイブの構築が日本社会を席捲したといっても過言ではないだろう。

筆者はこのような急激なデジタルアーカイブの隆盛状況を、いわば模様眺めをしていた。折しも勤め人であれば定年を迎える時期と重なったので、とりわけこのデジタルアーカイブの隆盛の勢いに気後れしてしまったような気持ちになっていた。2013年からは、国際資料研究所だけでなく、札幌の藤女子大学図書館情報学課程の教員として奉職したため、図書館情報学を教えるために費やす時間や、通勤時間が大幅に増大したことも、単なる言い訳というだけではない時間の制約となった。まあそういう訳で、『電子記録のアーカイビング』をまとめたころの、つまり20世紀末のネットワーク社会は把握に努めていたが、21世紀最初の20年、私自身電子記録にさほど強い関心を持ち続けられなくなっていた。

ところで、『電子記録のアーカイビング』執筆当時懸念した電子記録の保存をめぐる3つの問題点というのがある。このことを授業の中で取り上げて説明したいと考え、最近になって21世紀のデジタルアーカイブ動向を把握しようと考えた。しかし、この間ずっとその潮流から離れていたため、本の10年ばかりなのに、電子記録とデジタルアーカイブの動向

の把握方法がよくわからなくなっていた。

悪戦苦闘した末に、現在の「電子記録のアーカイビング」は、どうやら「デジタルアーカイブ」がキーワードだと見極めた。そこにビジネスチャンスを見た人々が電子記録の普及と高度利用を推進する動きを追っていくと、21世紀の最初に出てきたIT基本法がある。これを土台に、ITはなぜか知的財産と結び付けられ、2003年には知的財産基本法ができて、これを核にデジタルアーカイブの推進がじわじわと進んでいくという図式が見えてきた。そういえば国会図書館の明治期、昭和前期の図書が今ではいつでも自宅のPCで画像情報として閲覧できるし、国立公文書館にはアジア歴史資料センターがあり、ここには大量の公文書のデジタル画像がアップされている。検索システムもとてもよくできている。こういうのが知的財産を生かす、戦略のもとに整備がすすめられているのだろうか。そんな考えで、ざっくりとこの20年間のデジタルアーカイブの動きを追いかけてみた。その結果が、上に掲げた年表である。名付けて、『21世紀デジタルアーカイブ年表』。

2001年のIT基本法から始まり、知的財産戦略会議、知的財産戦略推進事務局、知的財産戦略本部など、IT基本法制定施行後には、もっぱら知的財産戦略がデジタルアーカイブを牛耳ってきたとみえる。その延長線上には、デジタルアーカイブ人材の育成をめざした博物館法図書館法もあったことがわかる。なお、このトレンドは日本社会だけではない。欧米もまた同じようなデジタルアーカイブによる文化資産の「オープン化」の努力を行っている。(ち)

【アーキビストの散歩道】大山捨松の手紙

米国バツサー大学図書館所蔵の「卒業生アーカイブ」

津田塾大学の創始者、津田梅子がわずか7歳で政府の留学生として米国へ渡ったことは、よく知られている。その時、梅子の他4人の女子留学生がいたことも、なんとなく知っていた。だが、その4人がどんな人なのかとか、その中の一人が山川捨松であったことなどは、あまり知られていない。このステマツ、一風変わった名前だ。インターネットで調べると、母親が娘を留学させるに際し、「捨てる」が「待っている」という意味を込めて、幼名さき（咲子）を改め「捨松」と名付けた、ということだった。

さて、私はこの大山捨松という女性にちょっと関心を持った。それは、先日NHKの歴史番組で取り上げられたのがきっかけだった。というのも、NHKの番組では、彼女の自筆の手紙の画像がふんだんに画面で取り上げられていたからだ。自筆の手紙が沢山出てくるとなると、私としては見逃せない。この手紙はどこにあるのだろうか。興味津々、番組最後に出てくる関係者のリストを待った。そこには、捨松が卒業したVassar College Libraryの名前が出てきた。これがわかると、インターネットでの検索ができる。

早速Vassar College Library Archivesでググる。Vassar Collegeはすぐに出てきた。Libraryもすぐにわかる。Archivesもサクサク。このあたりは、米国の大学図書館所蔵資料の整理と検索システムの使いやすさにいつも敬服してしまう。もちろん、日本の大学図書館の所蔵資料検索システムも、探したいものの名称が特定されている場合はサクサクだ。しかし、探したいものの名称があやふやな場合の検索には、学校の卒業年次等の基礎知識は問われる。

大山捨松の手紙をVassar College Archivesの目録から探し出すのは、私の場合「サクサク」だった。Wikiを見ると、大山捨松は、旧姓山川であるとか、捨松という名前は留学に際し咲子の名を改名させたなどの事情が分かる。それを踏まえれば、捨松は留学中の記録の中には、大山ではなく旧姓の山川の名前で登場する。まあ、資料検索にはこのような「基礎知識」が必要となる。もう少し専門的な用語ということで考えると、Archivesの中には、いろいろなコレクションがあり、卒業生の手紙類はAlumniというコレクションにまとめられている模様であった。

その次に、Alumniのコレクションはいくつもの箱に分かれていて、その箱の中身は卒業生の年次と名前アルファベット順で収納されている模様だった。捨松は年齢から言って多分1884年くらいだろう、と見当をつけて1884年の卒業生の資

料が入っている箱を探すと、Box5が出てきた。Box5を開くと、中はアルファベット順。捨松は当時はYamakawaだから、後ろのほうを探す。そうしたら、Yで始まるのは一人だけ、Yamakawaがあった。で、下の名前はStematzとある。

一瞬、これはドイツの名前ではないか、と思った。Stで始まり、語尾がtzというのは、いかにもドイツ語っぽい。でも、よく目を凝らしてその名前を見るとこれは確かに捨松と読める。Yamakawa Stematzは山川捨松であった。Vassar College Archivesの目録はここまでで、デジタル画像が出てくるところまではたどり着けなかった。でも、間違いなく山川捨松の手紙類はこのVassar College Archivesに保管されていることがわかった。とてもうれしかった。

さて、以上は実はスマホで検索調査をした結果の成功体験である。ところが、数日たってから、今度はPC経由で同じものを検索したが、2時間くらい悪戦苦闘したが、捨松の手紙の所在を記した項目は見出せなかった。どうしてそうなったのかは分からない。コンピュータ世界は誠に不思議なことが起きる。口惜しいから明日、またPCで探してみたい。

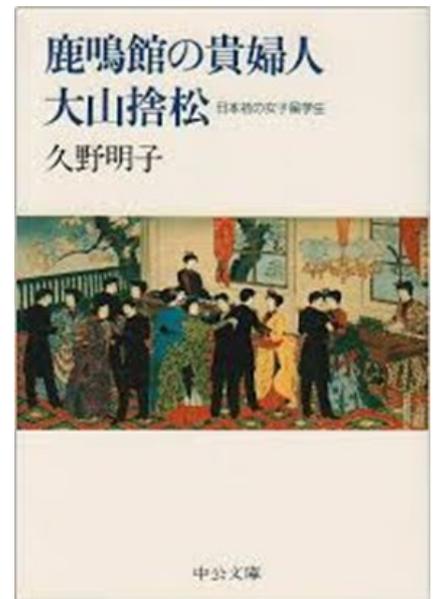
尚、捨松は日本に戻って大山巖と結婚し、大山捨松となった。その後、1884年に鹿鳴館で日本最初の慈善バザーを開催し、1888年には宮中の洋化顧問掛を仰せつかったなどの記録が見える(寺沢龍『明治の女子留学生』所収の略年表)。今日女性皇族が伊勢神宮に参拝される際の衣装は、捨松が洋化顧問掛として助言したものかもしれない。(ち)

本稿既報「またいとこのブログ」20201228

[またいとこのブログ \(mataitoko.blogspot.com\)](http://mataitoko.blogspot.com)

参考 Wiki: 大山 捨松 (おおやま すてまつ、安政7年2月24日(1860年3月16日) - 大正8年(1919年)2月18日)は、日本の華族、教育者。大山巖の妻。旧姓は山川(やまかわ)、幼名はさき、のち咲子(さきこ)。愛国婦人会理事。赤十字看護会理事として看護師教育を、また津田梅子旧友として女子教育を支援。スペインかせの予後が優れず死去。

参考 YouTube URL: (6) 大山捨松の生涯 ~その情熱と志~ -



◇◆◇アーキビストの消息(順不同)◇◆◇【凡例:●個人■機関】

訃報

- 歌野くみ子氏 2020年3月3日逝去、享年72。
夫君歌野博氏は大学の同級生、国文学研究資料館室にも勤務。ご冥福をお祈り申し上げます。合掌。
- 弥永康夫氏 2021年1月11日逝去、享年80。

- (株)国際マイクロ写真工業社 10月人事代表取締役会長森松義喬氏、代表取締役社長森松久恵氏。
- 折田悦郎氏【再掲】2020年3月末日九州大学を定年退職、4月名誉教授。10月九大鹿児島同窓会会長就任。
☆本コーナーへの皆様のご協力に心からお礼申し上げます。(ち)

●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆●●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆(ち)

- 太田宗志「東大と防空—団藤重光と東京帝国大学特設防護壇法学部団」(福島至編著『団藤重光研究』第1部第3章)タイトルにある「特設防護団」は筆者には耳慣れた名称だ。東大百年史の仕事の中でMさんが何やら夢中でその名前を連呼し、あれこれ調べて論文を書いておられた様子が昨日のこのように脳裏によみがえる。内容は全く承知しないまま、もう40年以上が経過した。ここにこうして内容に踏み込んで特設防護団と再会できることが、なんとも懐かしい。Mさん、どうしておられるだろうか。著者太田氏には、こんな機会をいただいたことにただ感謝するばかりだ。今後のますますのご活躍を期待申し上げます。龍谷大学社会科学研究所叢書第128号、日本評論社、2020年2月発行
- E2326 - 福島における震災アーカイブズの構築と資料収集の方針著者瀬戸真之氏は東日本大震災・原子力災害伝承館員。アーカイブは構築するものとする理解が眩しい。国立国会図書館『カレントアウェアネス・

- ポータル』(ndl.go.jp) No.403 2020.11.26
- ▼常陸大宮市文書館年報第5号 スゴイ!成長著しい。NHKのニュースでもイベント紹介があったし、活動に力が入っているのがよくわかり、勢いを感じる。益々の発展が期待される。加油!!
- 相澤健裕「櫻井徳太郎の民間信仰論と新宗教研究—板橋区公文書館所蔵フィールドノートの翻刻を通じて—」立正佼成会中央学術研究所から紀要をいただいた。目次に「櫻井徳太郎」「板橋区公文書館」の文字がみえた。一目で板橋区公文書館に設置された櫻井徳太郎文庫所蔵資料を活用した論文であるとわかった。個人的には、設立以来継続的なお付き合いがある板橋区公文書館、そこに寄贈された個人蔵書が博士課程の研究者による確かな研究に活用されたのがとてもうれしい。中央学術研究所紀要第49号 令和2年 中央学術研究所

●千代子のあしあと●◆▼●◆●●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

- またいとこのブログ 放談 Tomoko&Chiyoko フランス在住のまたいとこ Tomoko とともに、時々話題を取り上げ「放談」のキャッチボールをするブログ。11/1オンラインで秋学期の授業始まる 11/15 学術会議問題:105-6=99 という政治的「削減」? (本誌 No.122 既報)11/29 終戦記念日 vs. 対日戦勝記念日 靴を脱いだ10歳のハリー王子に教えられた戦

- 争終結と降伏文書(本誌 No.122 既報) 12/27 大山捨松の手紙(本誌 No.123 2頁) 1/24 アーカイブ資料整理と茶封筒
共に <https://mataitoko.blogspot.com/>
- ▼DJIレポート No.123 20210131 2021年1月31日 up, 4p. PDF 国際資料研究所 www.djichiyoko.com

DJI国際資料研究所の主な活動 2020年11月1日~2021年1月31日

<講演>

10月12日松本市役所職員向公文書管理研修講師

<出講>

11月10, 17, 24日 12月1, 8, 15, 22日 1月5, 12, 19, 26日 東京学芸大学 博物館資料保存論 オンライン

<執筆>

またいとこのブログ

11/01 オンライン授業/11/15 日本学術会議問題/
11/29 靴を脱いだハリー王子教えられたこと/12/27 大山捨松の手紙(本誌 No.123 3頁掲載) /1/24 アーカイブ資料整理と茶封筒

2021年1月31日 DJIレポート No.123 up; 国際資料研究所 www.djichiyoko.com

<参加>

11月2日, 12月25日 紀伊國屋書店資料整理調査
11月19日 JSAI鳥取セミナー 鳥取市
11月27日 長男新築祝会、茅ヶ崎市
12月8日 KM社打合せ オンライン
12月7-8日 第30回国際アーカイブの日セミナー、オンライン、主催:トリエステ大学、マリブール大学他

12月10日紀伊國屋書店資料整理調査打合オンライン

12月10日 全史料協関東部会研究例会オンライン

12月11日 免許更新講習会、三共自動車学校、藤沢

<見学>

11月19日 鳥取県立公文書館展示室、鳥取

11月24日 東京学芸大学大学史資料室ウェブ見学

<お稽古ごと>

11月9, 17, 24日 12月7, 14, 21日 1月11, 25日 ラウラ先生とルーマニア語を学ぶ オンライン

<その他>

11月4日 UNHCRと海外アーカイブ・ボランティアの会 オンライン

11月8日 NHKラジオ第1 ちきゅうラジオ フラメンコギターにチャレンジするイブキ君のお話、演奏付。

11月11日, 1月13日, 15日ひとみさんとzoomお茶会

12月4日 心の虫干しクラブ zoomお茶会

1月10日 アーカイブの絆 zoomお茶会

1月18日 デジタルアーカイブサロン zoom

1月20日 運転免許更新 横浜・二俣川

1月18日 GotoTravel 8月の分返金入金!

■ 巻末随想

◆2020年11月11日雑感

この日は水曜日だった。前日11月10日にオンライン授業(非同期型)の2回目をどうにか終えて、ちょっと気が楽になっていた。午後に予定していた友人とのzoomお茶会も楽しみで、いい調子の午前中を過ごした。で、午後のお茶会。zoomの設定も2週間前に教わった通りに操作できた。友人とはよもやま話で盛り上がり、結局2時間ほどの楽しいお茶会になった。この後、ノートにメモをしようと日付を書いた。その時気が付いた。この日は、2020年11月11日、使う数字は1が4回、0と2が2回。こんなにすっきりした数字の組合せは、滅多にないだろう。明後日が13日で金曜日というのがちょっと気になっていたことも、思い出した。数字にこだわるなんて、なぜだろう。何も特段の意味はなさそうだけど気になる日付だった。

◆鳥取県公文書館見学

11月19日、鳥取県公文書館を無理やり見学させていただいた。あらかじめウェブで予備見学をして、見学的を絞り込むことにした。というのも、一昨年には公文書管理条例を考察するため、個人的にずいぶん情報を提供していただき、お世話になるばかりの鳥取県公文書館に、ようやくお邪魔できそうな機会が巡ってきたから、効率よく勉強したいと思ったからである。実際には空港から市内内向かうバスでTさんにばったり出会い、Tさんがバスを降りるので一緒に下車したので、懐かしの鳥取県公文書館に飛び込んでしまった。閲覧室と展示を見学し、Tさんと一緒に館長にご挨拶、しばしの雑談ののち、私は隣接するArtCafeに赴いた。広場に面したカウンター席でランチと食後のコーヒーをゆったりと楽しむ機会に恵まれた。コーヒーカップの中に、広場のケヤキが映っているのに気づいて、すごく優雅な気分だった。



◆windows+shift+S オンライン授業の準備

10月下旬、大学の授業が始まることになった。今年にはコロナの影響で、授業は全てオンラインで行う。学生諸君への負担軽減のため、ライブよりはオンデマンドの授業が求められた。技術的には多分何とかなる、と思っていたのだが、どうも勝手が違う。実は9月ごろから大学支給のオンライン

授業準備マニュアルを見て準備しようと試みたものの、PCの扱いがどうも分からない。電話で大学のICTセンターに問い合わせても、やはり分からない。思い余って、PC持参で大学のICTセンターを訪ねた。訪問先では、至って丁寧にPCの操作方法を教えていただいた。中でも、表示画面を画像として一部分を切り取る裏ワザには感激！本項表題の通り、windows+shift+Sというキーボード操作で画面をコピー後切り取れる。PC画面を示して話を進めるには、最高の裏ワザ。教示賜ったK氏は自慢げに含み笑いしておられた。大学のオンライン授業の陰には、こんなPC名人が存在することを知った。ICTセンター万歳！

◆JICA 緒方研究所

JICA図書館を訪問する機会があった。この時、ロビーにJICA刊行物の展示と共に「Jica 緒方研究所」の展示パネルを見た。緒方とはもちろん昨年亡くなった元JICA理事長の緒方貞子さんのことだ。以下JICAのHPを一部引用する。

JICA 緒方貞子平和開発研究所(JICA 緒方研究所)は、2008年10月の研究所設立に尽力された故緒方貞子氏の理念を継承し、開発途上国が現場で直面する課題について政策志向の研究を行い、国際社会における日本の知的プレゼンスの強化を目指して取り組みます。(中略)以下のビジョンと基本方針を定めています。

ビジョン

平和と開発のための実践的知識の共創(Co-Creating Practical Knowledge for Peace and Development)

世界の平和と開発のために、さまざまなパートナーと共に、現場重視の視点をもって質の高い研究を行い、政策インパクトのある発信をしていきます。

研究の基本方針

- 1) 国際的な学術水準の研究を行い、積極的に発信する。
- 2) 現場で得られた知見を分析・総合し、事業にフィードバックする。
- 3) 人間の安全保障の実現に貢献する。

以上の方針のもと、変化する国際社会に対応し、持続可能な開発目標(SDGs)の戦略的推進や新たな開発課題に関する研究に果敢に挑戦します。また、JICA 開発大学院連携事業の一翼を担う機関として同事業を推進し、日本が培った経験を積極的に発信します。併せて人材育成の機能と研究交流の拠点としての機能を一層強化します。

グローバル化や企業活動の拡大、技術革新が進む一方で、格差の拡大、パワーバランスの変化による地政学的緊張の高まり、気候変動や人口動態変化など、世界や開発途上国が直面する課題はますます多様化・複雑化しています。今日的な視点で人間の安全保障の実現に向けて、イノベティブな発想をもって取り組み、領域をまたがる研究や外部機関との知のコラボレーションを積極的に進めていきます。

UNHCR アーカイブと国際資料研究所とのかかわりはすでに10年以上、緒方貞子さんは常にそのかかわりの支えであった。こうしたご縁に感謝し、JICA 緒方研究所の発展を大いに期待する。(ち)

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 ㊦ ←電子バージョンのマーク ISSN 1342-632X

DJIレポート DJIホームページ <http://www.djichuiyoko.com>

No. 123 20210131

発行所：国際資料研究所 Documenting Japan International Email: djiarchiv@yahoo.co.jp 代表 小川 千代子

〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3-8-24 phone 0466-31-5061 fax 0466-33-8535